



## 2019年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年10月11日

上場会社名 クックビズ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6558 URL https://cookbiz.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 藪ノ 賢次  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 岡本 哲郎 TEL 06-7777-2133  
 四半期報告書提出予定日 2019年10月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年11月期第3四半期の業績 (2018年12月1日～2019年8月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第3四半期	2,205	23.1	160	256.2	162	229.3	102	567.5
2018年11月期第3四半期	1,791	21.0	45	△73.9	49	△73.0	15	△86.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第3四半期	46.43	44.66
2018年11月期第3四半期	7.06	6.68

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年11月期第3四半期	1,953	1,312	67.2
2018年11月期	1,594	1,150	72.1

(参考) 自己資本 2019年11月期第3四半期 1,312百万円 2018年11月期 1,150百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年11月期	—	0.00	—	—	—
2019年11月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、2019年11月期につきましては、現時点で期末日における配当予想額は未定であります。

### 3. 2019年11月期の業績予想 (2018年12月1日～2019年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,064	22.4	203	53.6	205	49.1	124	75.4	57.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年11月期3 Q	2,216,091株	2018年11月期	2,177,341株
② 期末自己株式数	2019年11月期3 Q	38株	2018年11月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年11月期3 Q	2,202,014株	2018年11月期3 Q	2,170,325株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、2019年10月11日（金）に当社ウェブサイトに掲載いたします。

（日付の表示方法の変更）

「2019年11月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、企業業績の堅調な推移を背景に雇用や所得環境の改善が続いており、各種政策の効果もあって、全体として緩やかな回復基調で推移しました。一方で、国内においては2019年10月に予定されている消費税増税、さらに海外においては英国のEU離脱問題や米中間における通商問題の長期化、中国経済の減速等による海外経済の不確実性への懸念から日本経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

国内の雇用情勢につきましては、厚生労働省が2019年8月30日に発表した2019年7月の有効求人倍率（季節調整値）は1.59倍と高く人手不足感を反映した結果となっております。

また、当社の事業領域である飲食業における雇用情勢においては、2019年7月の「飲食物調理の職業」の有効求人倍率（常用（含むパート））は3.29倍で、「接客・給仕の職業」では3.90倍と全業種における有効求人倍率を大きく上回って慢性的な人手不足の状況にあり、増加する需要に対して人手不足が深刻化しており、飲食業界における人材の採用意欲は引き続き高い水準にあります。

このような景況感のもと、人手不足が続く飲食分野の人材サービス事業（人材紹介事業・求人広告事業）では、拡大する企業の採用ニーズを、職種形態毎に細分化し、これを多くの求職者に人材紹介サービスや求人情報サイトを通して情報を提供し、企業と求職者に出会いの機会を提供いたしました。

また、既存サービスの強化に加え、新たな注力分野であるダイレクトリクルーティングサービスにおける顧客開拓やサービス開発の推進等により、人材採用をはじめとする顧客企業の人事労務等の課題解決をサポートしていくことで、他社との差別化や顧客満足度の向上に取り組むとともに、人材の採用・育成を推し進めることで事業基盤の強化を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は、営業人員の採用による人員強化やプロモーション強化により堅調に推移し、2,205,714千円（前年同四半期比23.1%増）となりました。利益につきましては、従業員の待遇改善、積極的な人材採用などの人材投資および広告宣伝投資を実施したことにより、営業利益は160,947千円（前年同四半期比256.2%増）、経常利益は162,805千円（前年同四半期比229.3%増）、四半期純利益は102,241千円（前年同四半期比567.5%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ①人材紹介事業

人材紹介事業におきましては、「cookbiz」（※）サイトへご登録いただいた転職を希望される方へ、転職先を紹介する事業を運営しております。

当第3四半期累計期間におきましては、求人企業と求職者のマッチング率向上にむけ、きめ細かな登録者対応を行うことを目的に求職者と当社コンサルタントとの面談内容の改善や求人企業の新規開拓による求職者への紹介企業数の向上施策を実施しました。

その結果、当セグメントにおける売上高は1,375,026千円（前年同四半期比16.4%増）、セグメント利益は285,197千円（前年同四半期比121.4%増）となりました。

#### ②求人広告事業

求人広告事業におきましては、求人広告サイトである「cookbiz」（※）の事業を運営しております。

当第3四半期累計期間におきましては、事業基盤の強化を目指し、営業人員の採用を推し進めるとともに、教育専任者を増員し研修体制の充実を図ることにより営業力の強化に努めてまいりました。また、2019年4月より販売を開始した新サービスである月額課金のサブスクリプションサービス「ダイレクトプラス」の販売強化を実施致しました。

その結果、当セグメントにおける売上高は802,204千円（前年同四半期比34.4%増）、セグメント利益は63,703千円（前年同四半期比35.1%減）となりました。

## ③その他事業

その他事業におきましては、飲食業界で働く人に向けた研修事業である「クックビズフードカレッジ」事業を展開しております。飲食業界で働かれている方に研修を通じて成長を促すことで、個人のキャリア形成の確立や組織の成長に通じ、これが業界全体の底上げに繋がると考えております。当事業は、事業基盤強化に向けて営業人員の採用を推し進めるとともに、人材紹介事業及び求人広告事業とのクロスセルにより、認知度向上とともに売上拡大に努めてまいりました。

また、同じくその他事業として、料理人・シェフを中心にしたソーシャル・ネットワーキング・サービスである「Foodion」を展開しております。現時点においては、当該サービスにかかるユーザビリティの向上やユーザー拡大を推進しております。

その結果、当セグメントにおける売上高は28,482千円（前年同四半期比114.4%増）、セグメント損失は39,251千円（前年同四半期はセグメント損失53,602千円）となりました。

※ cookbiz：弊社は人材紹介事業及び求人広告事業ともに「cookbiz」の同一ブランドにて展開しております。

## (2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値で比較を行っております。

## (資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ359,302千円増加し、1,953,841千円となりました。その主な要因は、現金及び預金が286,953千円、売掛金が31,040千円、前払費用が27,391千円増加したためであります。

## (負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ196,893千円増加し、641,021千円となりました。その主な要因は、未払費用が23,976千円、未払法人税等が32,074千円、前受金が107,076千円増加したためであります。

## (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ162,408千円増加し、1,312,819千円となりました。その主な要因は、増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ30,123千円、四半期純利益の計上により利益剰余金が102,241千円増加したためであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2019年1月11日の「平成30年11月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,053,032	1,339,986
売掛金	187,215	218,256
前払費用	63,875	91,267
その他	611	1,206
貸倒引当金	△2,490	△4,164
流動資産合計	1,302,245	1,646,552
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	115,628	107,236
工具、器具及び備品(純額)	8,677	8,237
有形固定資産合計	124,305	115,474
無形固定資産		
ソフトウェア	39,416	41,673
商標権	81	68
無形固定資産合計	39,497	41,741
投資その他の資産		
敷金	118,435	123,424
長期前払費用	219	19,082
繰延税金資産	9,485	7,307
その他	350	260
投資その他の資産合計	128,490	150,074
固定資産合計	292,294	307,289
資産合計	1,594,539	1,953,841
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	89,459	106,359
未払費用	94,668	118,645
未払法人税等	10,365	42,440
未払消費税等	30,030	41,983
前受金	79,052	186,129
預り金	5,852	29,660
賞与引当金	54,500	30,000
役員賞与引当金	-	5,400
返金引当金	11,029	11,521
流動負債合計	374,960	572,138
固定負債		
資産除去債務	64,633	64,689
その他	4,534	4,193
固定負債合計	69,168	68,883
負債合計	444,128	641,021
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	439,308	469,432
資本剰余金	432,308	462,432
利益剰余金	278,793	381,034
自己株式	-	△79
株主資本合計	1,150,411	1,312,819
純資産合計	1,150,411	1,312,819
負債純資産合計	1,594,539	1,953,841

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位: 千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)
売上高	1,791,155	2,205,714
売上原価	29,841	28,027
売上総利益	1,761,314	2,177,687
販売費及び一般管理費	1,716,124	2,016,739
営業利益	45,190	160,947
営業外収益		
受取利息及び配当金	11	15
サービス利用権失効益	3,494	1,195
セミナー収入	144	979
受取和解金	-	752
その他	1,099	640
営業外収益合計	4,750	3,583
営業外費用		
支払利息	62	-
上場関連費用	104	-
株式交付費	262	-
株式報酬費用	-	1,654
その他	73	70
営業外費用合計	503	1,725
経常利益	49,437	162,805
特別損失		
固定資産除却損	7,026	-
特別損失合計	7,026	-
税引前四半期純利益	42,410	162,805
法人税、住民税及び事業税	10,222	58,385
法人税等調整額	16,871	2,178
法人税等合計	27,093	60,564
四半期純利益	15,317	102,241

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年10月22日開催の取締役会決議に基づき、当社の従業員に対する譲渡制限付株式報酬として2018年12月17日付で新株式の発行を行い、当第3四半期累計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ7,905千円増加しております。

さらに、2019年2月22日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役(社外取締役を除く。)に対する譲渡制限付株式報酬として2019年3月18日付で新株式の発行を行い、当第3四半期累計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ12,499千円増加しております。

また、新株予約権の行使により、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ9,718千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が469,432千円、資本剰余金が462,432千円となっております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期累計期間(自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	人材紹介事業	求人広告事業	その他事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	1,180,935	596,935	13,284	1,791,155	1,791,155
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,180,935	596,935	13,284	1,791,155	1,791,155
セグメント利益又は損失(△)	128,826	98,085	△53,602	173,309	173,309

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	173,309
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△128,119
四半期損益計算書の営業利益	45,190

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



## Ⅱ 当第3四半期累計期間(自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	人材紹介事業	求人広告事業	その他事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	1,375,026	802,204	28,482	2,205,714	2,205,714
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,375,026	802,204	28,482	2,205,714	2,205,714
セグメント利益又は損失(△)	285,197	63,703	△39,251	309,648	309,648

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	309,648
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△148,701
四半期損益計算書の営業利益	160,947

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント利益又は損失の測定方法の変更)

第1四半期会計期間より、各報告セグメントの業績をより適切に把握するため、一部の費用の配分方法を変更しております。

なお、前第3四半期累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の「セグメント利益又は損失(△)」は、変更後の測定方法により作成しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。